

さんぽみち



発行 わがまち大田鵜の木地区推進委員会

連絡先
鵜の木特別出張所
☎ 3750-4241

戦後五十年をふりかえって

私の六十年に亘る日誌の中から全長五十メートルの年表の一部を抜粋して振り返って見ました。

昭和二十年八月十五日、焼跡にも蟬の鳴く暑い日、長かった戦争も、ようやく終りました。

私も内地の軍隊に居りましたので復員命令で直ぐに帰省し即日職場に復帰しました。

千鳥の町は富士山を目標に右旋回したB29が高度一万メートル上空に飛来し大量の焼夷弾をこの町に落としました。焼夷弾は空中で破裂し、火の油となって降り注ぎ、千鳥町駅前は今東調布信用金庫の前から千鳥二丁目の「朝日湯」あたりにかけて一回の空襲で千鳥駅前通りは、あたり一面が火の海になり、更に南町会の「加賀湯」周辺も所々に火柱が上がり約五十戸近くが焼失しました。

また南久が原一丁目の谷川医院周辺の戦災七中前の北辰電機寮が全焼して今の鵜の木の管内は五〇％位の焼失率でした。

鵜の木八幡様の木々も焼けて哀れな姿を晒し、戦車を造っていた軍需工場の三菱重工は大型爆弾を浴び、焼きただれた赤錆の鉄くずの山となって敗戦の衰れさを止め、多摩川大橋やガス橋の木橋も処々黒焦げの穴があいて、下を覗くと多摩川の水は何の変わりもなく流れていました。



戦後のインフレは、醵五、六匹が十銭でしたが、数日で十円となりました。

翌、二十一年には戦争で隠された物資の摘発の為、「世耕機関」などができました。

米、一俵(六十キロ)で六十円でした。しかし、この年の米の生産高は、明治三十八年以來の大凶作で、戦後の数年間は衣食住のすべてで不自由でしたが、それでも人々は、毎日毎晩の空襲が無くなった事を喜んでいました。

昭和二十二年吉田内閣から芦田内閣となり、この年「米、一俵は七百円」の高値となりました。

千鳥二丁目 倉方 勝雄

私は、昭和十八年十月に疎開の形で鵜の木に住むようになり、今年の秋でちょうど五十二年になります。以前は西蒲田に八年程住んでいました。

鵜の木は、駅を挟んで東西に賑やかな商店街が続き、多摩川の近くは整然とした区画の閑静な住宅地です。また、河原坂下から多摩堤通りを横切り、多摩川土手下の東京高校(東中と戦前の名前)で呼んでいる人もいます。に通じる銀杏並木は、四季おりおりのながめが道行く人びとの目を楽しませてくれ、買い物するにも散歩するにも便利で住み良い町です。

半世紀を過ぎた「わがまち」を振り返ってみますと、数え切れない位の出来ごとが走馬灯のように蘇り、昨日のこのように思えてなりません。

昭和三十年代の後半まで、我が家はガスも水道もありませんでした。御飯は竈で炊き、七輪でお湯を沸かし、冬は火鉢で暖をとってお

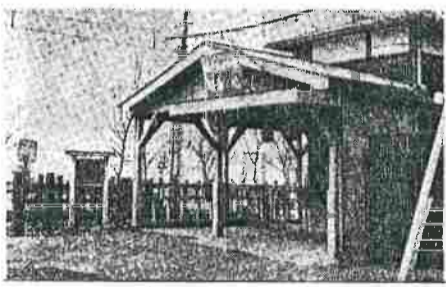
りました。水は手押しポンプの井戸水で、汲み上げた水は夏は冷たく、冬は暖かく、風呂桶を一杯にするには何百回もポンプを漕いだものでした。

暑い日射しの昼下り：我が家の前を通りかかったトラックの運転手さんが、この井戸水を飲み干して、「こんなに美味しい水を飲んだのは初めてですよ。」と大層、褒めてくれたのも昭和三十五年頃の懐かしい思い出です。

焼夷弾による再度の空襲から我が家を守り通し、勤労動員先の工場で聴いた終戦の詔勅。台風が襲来する度、床下浸水に悩まされた戦後の昭和二十年代。ガス・水道がやっと引かれた三十年代後半。そして五十年代に入り、マンションブームが始まると昭和十年代に鵜の木に移住してきた先人達の庭付き住宅が次ぎつぎとマンションに立て替えられて、緑豊かだった町も、日々昔の面影は薄れるばかりで、私は淋しい限りです。

鵜の木二丁目 永田 清

鵜の木西町会は坂と樹木が多く終戦直後の町は暗い日が続きました。現町会顧問の天明宗右衛門氏と今は亡き高桑勝正氏が中心とな



↑昔々の鵜の木駅

り、外灯維持会を作り町を明るくしたり、其の後も皆の住み良い町づくり尽力されました。

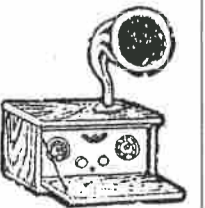
町会長では伊藤福子氏が在任期間が長く昭和三十三年から平成元年七月まで、活躍されました。

町内には名刹として、光明寺と増明院があり光明寺の四天王の像は、東京都の指定文化財になりました。又、テレビでもおなじみの小汀利得先生や南極越冬隊長の西堀栄三郎先生もおられました。六郷用水は現鵜の木特別出張所の下を流れていて、昔は蜚が飛び交い鰻もいて取るには夕方流し針を仕掛けて早朝その場所に行き、かかった鰻を集めた由。

これは今から七十年程前の話ですがこの六郷用水も、昭和が進むにつれて水田から畑、そして宅地に変わり、下水道の普及により次々と埋め立てられて、この用水も昭和五十二年には花壇と歩道になりました。又、松山には戦時中約三千人を収容出来る防空壕がありました。今は姿をかえて緑の丘になってます。町のそばの田園だった場所には、立派な大田区民プラザが建ち、環八道路も貫通して昔の町の面影も段々と少なくなってきました。

町の人達は町会の行事にも協力的でリサイクル活動も盛んです。町の良い伝統を受け継ぎ、より良い町づくりにと前進しております。

南久が原二丁目 板倉 正子



わがまち有名人物

長寿クラブの願い

千鳥南長寿クラブの活動は、明日に向かって、ごく自然に会員相互の信頼のもと、明るく楽しく笑顔絶やさず、ゲートボール、踊り、カラオケ等で親睦を図り、会長をはじめクラブ全員で美化活動の一環として公園の清掃を一生懸命行っております。

公園は四季折々の草花が咲き乱れ、特に春の千鳥二丁目公園は、紅梅、白梅に桃の花、そして樹齢百年を越すサクラの木が咲き誇り、親しい仲間と打ち興じるゲートボールは、最高の楽しい一時です。

いま、区では「友愛活動」に力を注いで居られますが、私達に憩いの場所がこの地域には有りません。千鳥南、千鳥北町会地区に是

千鳥二丁目 江間 君平

非友愛の和を図る場所の提供をお願いいたします。

会員のなかには腰、膝の病に悩んで居られる方々が多く見受けられ、ご一緒出来ず寂しい思いで一杯です。皆が集まれる憩いの場があれば楽しいお話や、なにかお悩みのある方々に勇気づけたりすることも出来ると思います。

私達に、活力と生甲斐を与える「憩いの家」のような施設が、この地域にあればどれほど良いかと定例の役員会でいつも話題に上がります。

どうか「友愛運動」を推進するために私達高齢者の声をお聞きください。

第四回鶴の木地区連合運動会

実行委員長 掛川 正昭

十月二十日、快晴のもと、大森第七中学校グラウンドに於いて、第四回鶴の木地区連合運動会がとどこおりなく行なわれました事を報告致します。今回の運動会は従来

の青少年対策委員会の主催から鶴の木特別出張所管内七町会との共催となりました。

各町会選出の実行委員と各学校の校外委員の協力のもと六月中旬から準備に入り当日の運営を行いました。プログラムは前回と同じでありましたが多数の方々の参加をいただき、例年にない盛り上がり



青少対、デイキャンプ

十一月九日、前日の雨も上り久し振りのデイキャンプが百三十名の参加者のもと子供の国で行われました。千鳥小、東三小、嶺町小の皆さんの協力でお断りするほど大勢の申し込みが有りました。

飯盒の炊き方の説明などジュニアリーダーの三人も積極的にお手伝いをしてくれました。鶴の木青少対にもリトル、ジュニア、シニアの各リーダーと子ども達の組織が出来たらと考えています。

焦げたご飯に「食べたくない。」と言っていた子供も口に入れたら「美味しい。」と何回もつまんだり、班別に作ったカレーにお代わりする子供。短い自由時間を工夫して遊んで下さった皆さんに、感謝をしつつ子供の国を後にしました。



青少対鶴の木地区委員会 少年部会長 本橋 政昭

リレーエッセイ

自然環境を思う

千鳥に住んで、早や三十数年になろうとしています。

近くに流れる多摩川は、私にとって思い出深い川です。東京へ出てきた昭和三十六年頃は、多摩川の水面は、油が浮きへドロに汚れ、濁んだ川に驚きを覚えたことを思い出します。近頃は、かなりきれいになり、鳥も河辺に遊び、魚釣りも楽しめるようになりました。

千鳥二丁目 大芦 重雄

環境の悪化は、人の力で良くも悪くもなると思います。

これから先、十年、二十年、この地域が自然環境に恵まれた、明るく、みどり豊かな住みよい町にと、願わずにはいられません。私の思いが通じますよう、日々努力を積み重ね、地域の発展と共に頑張っていきたいと思えます。次回は鶴の木西町会の 石川 昭二さんです。

俳句

縁起物 値決めに呼吸 酉の市

風無くて 人の気配に 散る紅葉

神の留守とは言え式の 多きこと

老いぼれて 風邪引くことも 忘れけり

留守番は 銭箱まかせ 柿を買ふ

アメ横や だみ聲高く 年の暮

南久が原二丁目 小原 青文

編集後記

さんぽみちが地域情報紙として皆様にご愛読をいただきながら早くも五年、ここに第16号をお届け致します。これまでご投稿下さいました方々に感謝申し上げ、又編集委員の真摯な努力と編集会議の白熱した意見をふまえて、これからも地域に役立つ記事作りに頑張りたいと思えます。

編集長 池田進太郎

鶴の木特別出張所管内

人口	男	10,648名
	女	10,891名
	計	21,539名
世帯数	10,163世帯	
平成8年11月1日現在		